

簡牘研究文献目録

大庭脩

一九〇一年、まさしく二十世紀の最初の年に、スウェンヘディンが椽蘭で晋代の木簡を発見して以来、六十年の間に発見された簡牘の数は極めて多数にのぼり、史書に伝える汲冢の竹書が、単なる物語としてでなく、我々に身近く感じられる。中国西陲出土の簡牘は、殷墟の卜辞、敦煌石室の古文書と共に、二十世紀における東洋学研究になまの材料として提供された。これら簡牘の研究は、一九三〇年の居延漢簡の出土によって、著しく進んだが、戦争による幾多の災害は、発見後二十余年間その研究を阻害し続けた。写真原稿が戦禍を蒙った結果、殆んど三十年近くたった昨今、漸くその写真版が、それも半ば近く不鮮明な姿で我々の手本に届いた。しかも国際情勢は漢簡の上にもあらわれ、原簡は公開されないし、二つの中国が同じ簡にそれぞれ別の番号を附して出版していることは、番号の照合などというつまらぬ事にエネルギーを費さねばならぬ不便が、今なおつきまとうのである。しかし、写真版を手にして、簡牘の研究は新しい段階に入った。実物の姿を知らずに暗中模

索していた頃の論文には、再検討される必要が生じている。そういう作業に、居延漢簡甲編の出版によって、かつての劳榘氏の書物が少量しか輸入されなかつたのに比較し、より多くの人々と共に従える事はよろこばしい。ただし「甲編」の釈読に随分疑問があることは、多くのテキストを集めて検討する必要を感じるのであるが、衆知を集めるための一つの手がかりとして、この文献目録をおくりたいと思う。

かつて、簡牘研究文献目録は、東洋史研究十二の三、十四の一・二号、古代学三の二号、居延漢簡甲編等に作製されていたけれども、いずれも網羅的ではなかつた。私は、次の様に項目をたて、項目の中は発表年代順に配列した。

- 一、簡牘一般。イ、簡牘概説。ロ、簡牘制度。
- 二、簡牘資料。三、簡牘研究。四、参考論文。

一、イにおいては、今から簡牘を研究しようとする人々が、簡牘発見の経過、研究の展望等を知ろうとするのに、先ず読むべき物を選んだ。ロにおいては、書写材料として

一 簡 牘 一 般

イ 簡 牘 概 説

簡牘が用いられていた当時に、それは如何に扱われていたかという事を知るに便利なものを集めた。二は、発見の順序に従い、その積文の存する書物を集めた。簡牘のテキストであり、同時に個々の簡の研究でもある。三にはもっぱら簡牘を用いて行われた研究の報告を、四には簡牘ではないが、同時に出土した物に関する研究報告を拾っておいた。勿論、一に属せしめたものはすべて三の項目にも入るものであり、二に集めた資料は、同時に三に属せしめて研究論文としても掲げなければならぬが、多くはその手数を省いた。又、三の研究論文には、極めてせましく範圍を区切って、簡牘を利用したもの、直接関係あるものにしぼった。それは、この目録が漢代史、晋代史等の研究文献としてではなく、むしろ、古文書学的な意味に簡牘を見て選択したためである。論文の中には、学説史的な意味を注解を加えたものが多く有るのであるが、紙面の都合で他日を期したい。

ともあれ、敦煌漢簡があり、居延漢簡があり、そして最近武威漢簡が発見された。居延は漢代の張掖郡居延県であるから、居延漢簡は張掖漢簡とも呼べるであろう。かく考えれば、いつか近い日に、酒泉郡のあとから酒泉漢簡も出土して、武帝の河西四郡の故地より尽く漢簡が出土するということにならないとはいえない。武威漢簡の報告書が出版されることを待ちつつ、私は酒泉漢簡の出土をも夢みているのである。

番号	著者	書名	頁数	出版年
1	欽堂	漢代簡策類の書に付きて	書苑三—8	一九四
2	後藤朝太郎	中亞発掘の漢代の木簡について	書画之研究 一—5	一九七
3	〃	中央亜細亞発掘の漢代木簡に就いて 上・下	書画骨董雜誌 一元・三言	一九九
4	高田桂下	スタインと木簡	書道室—11	一九六
5	石田幹之助	支那の西陲に発見された漢晋間の木簡について	書苑—11 又「唐史叢鈔」(一九四八)所収	一九七
6	藤原楚水	図解書道史 — 流沙墜簡の文字—	書苑三—9	一九九
7	荏本白雲	中央アジア探検隊の齎した漢晋間の木簡について	蒙古—6	一九四三
8	森鹿三	最近における中国学界の動向	東光—	一九四七
9	〃	「居延漢簡考釈」を手に思う	学園新聞	一九五二
10	〃	居延漢簡研究序説	東洋史研究 三一—3	一九五三
11	〃	簡牘研究文献目録	〃	〃
12	米田賢次郎	居延漢簡とその研究成果 上・下	古代学—3 三一—2	〃
13	石田幹之助	支那西陲出土の簡牘	定本書道全集—	一九五四

- 14 尾上八郎 等監修 定本書道全集三 西域出土木簡その他の書蹟 河出書房刊 //
- 15 野本白雲 木簡編の凡例とその書道的考察 定本書道全集三 //
- 16 藤枝 晃 長城のまもり―河西地方出土の漢代木簡の内容の概論 自然と文化別編二 一九五五 //
- 17 | 簡牘研究文献目録補 東洋史研究 四一・1・2 //
- 18 勞鞅(譚) 漢簡について 東方学十一 //
- 19 内野 熊一郎 漢碑漢簡の資料性 中国文化研究会々報五 1 一九五五 //
- 20 森 鹿三 長沙出土の竹簡 墨美 五 一九五五 //
- 21 日比野 丈夫 スタイン第三回中亞探検採集木簡 墨美 五 //
- 22 森 鹿三 居延出土の木簡 墨美 七 一九五七 //
- 23 神田喜一郎 等監修 書道全集二 中国2 漢 平凡社刊 一九五六 //
- 24 森 鹿三 漢晋の木簡 書道全集二 //
- 25 米田賢次 郎・大庭 脩 図版解説 書道全集二 //
- 26 神田喜一郎 等監修 書道全集三 中国3 三國・西晋・十六國 平凡社刊 一九五九 //
- 27 内藤 乾吉 米田賢次 郎・大庭 脩 図版解説 書道全集三 //
- 28 森 鹿三 居延の早期簡 墨美 六 //
- 29 陳公柔 徐蘋芳 関于居延漢簡的發現的和研究 考古一 一九六〇 //
- 30 森 鹿三 新刊「居延漢簡甲編」に よせて 極東書店書報一・二二 //
- 31 王國維 著 鈴木虎雄 訳 簡牘檢畧攷 藝文三―4・5・6 一九二二 //
- 32 王國維 簡牘檢畧攷 雲窗叢刻所収又海寧王忠愍公遺書第二集(一九二七)所収 中山大學語言歷史研究所週刊第九集一〇〇期 一九二四 //
- 33 容肇祖 簡書發現考 東方學報東京六(一九二七)所収 一九二九 //
- 34 原田淑人 支那古代簡札の編綴法に就いて 東方學報東京六(一九二七)所収 一九二九 //
- 35 傅振倫 簡策説 考古六期 一九三七 //
- 36 孔令毅 虞章草木簡發見於宋 說文月刊二 10 一九四一 //
- 37 趙萬里 從簡牘文化說到雕板文化―記載文字的工具發展簡史 文物參攷資料二―2 一九五一 //
- 38 陳 槃 先秦兩漢簡牘考―「篇」「卷」附考― 學術季刊一 4 一九五三 //
- 49 | 古竹簡在文書方面之使用 大陸雜誌六 //

40 王 明簡與帛 考古通訊 一九五〇年一—二卷

二簡 贗資料

イ 樓蘭 晉簡

一九〇一年、スウェーデン・ヘーデン楼蘭において発掘、
一二二片。

41 August Conrady:

Die chinesischen Handschriften
und sonstigen Kleinfunde Sven
Hedins in Lou-lan.

1 vol. Stockholm 1920

42

斯文海定楼蘭所獲繚素簡
贗書影

北平図書館 一三一
館刊 五一—四

43

斯文海定楼蘭所獲繚素簡
贗道文抄

〃 〃

ロ 尼雅 晉簡

一九〇一年、アウルル・スタイン尼雅において発掘、
約五〇片。

44 Sir Aurel Stein:

Ancient Khotan, detailed Report
of Archaeological Explorations in
Chinese Turkestan.

2 vols. Oxford 1907

ハ 敦煌漢簡及和闐・楼蘭晉簡

一九〇六—〇八年、スタイン第二次探検に際して、

敦煌(漢簡七〇二点)、和闐、楼蘭(晉簡一九一点)にお
いて発掘。

45 Edouard Chavannes:

Les documents chinois decouverts
par Aurel Stein dans les sables
du Turkestan oriental.

1 vol. Oxford 1913

46 羅振玉・王國維 流沙墜簡

一三一四

47 王國維 流沙墜簡考釈補正

學術叢編 一 一三一六

48 〃 流沙墜簡序

學術叢編 四 又一觀堂集
林(一九二三)所収 一三一七

49 〃 流沙墜簡後序

學術叢編 四 又一觀堂集
林所収

50 Sir Aurel Stein:

Serindia, detailed Report of
Explorations in Central Asia
and Western-most China.

5 vols. Oxford 1921

51 王國維 敦煌漢簡跋十四首

觀堂集 林 四 一三一三

52 〃 羅布淖爾東北古城所出晉簡跋

〃 〃

53 〃 尼雅城北古城所出簡贗跋二首

〃 〃

54 賀昌群 流沙墜簡校補

北平図書館 館刊 八一—五 一三一四

55 〃 流沙墜簡補正

圖書季刊 二 一三一五

56 勞 榘 敦煌漢簡校文
 居延漢簡考 一九五〇
 又 一九六〇
 所收 積文之部

ニ 楼 蘭 晋 簡

一九〇八—〇九年、大谷探検隊楼蘭発掘、五片。

57 | 西域考古図譜 国華社刊 一九二五
 | 書道全集三 平凡社刊 一九二二

ホ 楼蘭晋簡、敦煌漢簡

一九一三—一五年、スタイン第三次探検に、楼蘭及び敦煌にて発見、二一九片。

59 Sir Aurel Stein:

Innermost Asia, detailed Report of Explorations in Central Asia, Kanu-su and Eastern Iran. 4 vols. Oxford 1928

60 張 鳳 漢晋西陲木簡彙編

61 Henri Maspero:

Les documents Chinois de la troisième expédition de Sir Aurel Stein en Asie centrale. 1 vol. British museum 1953

62 岩井大慧 三〇レール・スタイン卿第三次中亜探検将来文書考 学燈 五—10 一九五〇

63 仁井田陞 スタイン第三次中亜探検将来の中国文書とマスペロの研究——法律経済資料を中心として—— 史学雑誌 六卷—6 一九五五

○ 日比野 丈夫 探集木簡
 居延漢簡
 一九三〇年、西北科学考察团フォルク・ベルグマン内蒙古自治区エチナ川流域にて発見、約一万片。

64 勞 榘 居延漢簡考 積文之部(油印) 一九四三

65 // 居延漢簡考 考証之部(油印) //

66 // 居延漢簡考 序目 中央研究院歷史語言研究所 集刊 〇—4 //

67 Folke Bergman: Travels and Archaeological Field-work in Mongolia and Sin Kiang, a Diary of the Years 1927~1934. History of the expedition in Asia 1927-1935 by Sven Hedin in collaboration with Folke Bergman. IV. (Reports from the scientific expedition to the north-western provinces of China under the leadership of Dr. Sven Hedin.) Stockholm 1945

68 劉 國 鈞 跋 袁元善旧藏漢簡 書学 四 一九五〇

69 安 志 敏 居延漢簡考 考証之部 燕京學報 三 一九四七

70 周 桓 書評 居延漢簡考 燕京學報 三 //

- 71 勞 翰 居延漢簡考釈 (鉛印) 商務印書館 一九五九
- 72 勞 翰 居延漢簡考釈補正 集刊一四 〃
- 73 蘇瑩輝 中央図書館所蔵漢簡中的新史料 大陸雜誌三 一九五一
- 74 平中 芥次編 居延漢簡考証細目上 油印 一九五九
- 75 Bo Sommarström: *Archaeological Researches in the Edsen-Gol Region, Inner Mongolia.* 2 vols. Stockholm 1956-58
- 76 勞 翰 居延漢簡 図版之部 專刊三 一九五九
- 森 鹿三 居延出土の木簡 墨美六七 再出
- 77 中国科学院考古研究所 居延漢簡甲編 考古學專刊 乙一八 一九五九
- 78 勞 翰 居延漢簡考証 集刊三〇 〃
- 森 鹿三 居延の早期簡 墨美九二 再出
- 79 勞 翰 居延漢簡 考釈之部 專刊三〇 一九六〇
- ト 楽 浪 漢 簡 一九三一年、朝鮮古蹟研究会、大同郡南串面南井里 彩篋塚にて発見、一片。
- 80 楽浪彩篋塚 朝鮮古蹟研 究会刊 一九五九
- チ 羅布淖爾漢簡 一九三二年、西北科学考察団 黄文弼氏ロブノール 北岸にて発見、七一片。
- 81 黄文弼 居盧營倉 羅布淖爾漢簡考釈之一 国季刊五 一九五九
- 82 〃 羅布淖爾攷古記 中国科学考察団叢刊之一 一九五九
- リ 敦 煌 漢 簡 一九四四年、西北科学考察団(中央研究院、中央博物院、北京大学等で組織)の夏鼎氏、敦煌玉門關遺址附近にて発見、四八片。
- 83 夏 鼎 新獲之敦煌漢簡 集刊一九 一九五九
- 又 長沙楚簡及び長沙漢簡
- 中国科学院考古研究所工作隊が、一九五二年長沙五里牌において戦国時代の竹簡三十七片、一九五三年長沙仰天湖において戦国時代の竹簡四十三片、一九五四年長沙楊家灣において戦国末漢初の竹簡七十二片、同地域二〇三号墳、四〇一号墳より漢検及札計十片を発見。
- 84 考古研究所 湖南調査団 長沙近郊古墓発掘記略 科学通報三 一九五九
- 85 批竹簡及彩繪木俑彫刻花板 長沙仰天湖戦国墓発現大 文物參攷資料三期 一九五九
- 86 饒宗頤 長沙出土戰国楚簡初釈 油印 一九五九
- 87 神田 喜一郎編 書道全集一 中国、殷、周、秦 平凡社刊 一九五九
- 88 史樹青 長沙仰天湖出土楚簡研究 群聯出版社 一九五九
- 森 鹿三 長沙出土の竹簡 墨美 壹 再出

- 89 中国科学院 長沙發掘報告
考古研究所
ル 武威 漢 簡
一九五九年、甘肅省博物館文物工作隊が、武威磨咀子六号墳において、竹木簡を発見、計六一〇片。
- 90 甘肅省 博物館 甘肅武威磨咀子6号漢墓
考古五月号 一六〇
- 91 武威漢簡
光明日報一月一八日号 一六二
光明日報三月一五日号 //
- 92 武威漢簡(摹本) //
- 三 簡 牘 研究
- 93 傅振倫 漢武年号延和說
考古六 一九五
- 94 勞 翰 從漢簡所見之辺郡制度
集刊八一2 一九五
- 95 賀昌羣 烽燧考
北京大学四十四週年紀念論文
集乙一上 一九四〇
- 96 瀧川 政次郎 流沙壁簡に見える漢代法
滿洲學報6 一九四二
- 97 勞 翰 漢簡中之武帝詔
圖書季刊新平一2・3 一九四
- 98 森 鹿三 漢簡中の河西經濟生活
集刊二 //
- 〇 最近における中国學界の動向
東光二 一九四七
再出
- 99 勞 翰 漢代社祀の源流
集刊二 一九四七
- 100 兩関遺跡考 //
- 101 勞 翰 漢代兵制及漢簡中の兵制
集刊一〇 一九四
- 102 漢武後元不立年号考 //
- 103 陳 槃 漢晉遺簡偶述
集刊一六 //
- 104 勞 翰 論漢代之陸運与水運
積漢代之亭障与烽燧
史學雜誌 天一一 一九四
- 105 西嶋定生 漢代之土地所有制——特
に名田と占田について——
集刊三 一九四
- 106 勞 翰 漢代的亭制
龍岡雜誌——大石与小石——
大陸雜誌一 一一 一九五
- 107 楊聯陞 漢代丁中・廩給・米粟・大小石之制
國學季刊七 一 一九五
- 108 勞 翰 漢代的雇傭制度
集刊三上 一九五
- 109 董作賓 漢簡曆譜
大陸雜誌二 一 一九四
- 110 陳 槃 由漢簡中之軍吏名籍說起
大陸雜誌二 八 一九四
- 111 趙榮琅 漢簡歷譜
大陸雜誌二 一〇 一九四
- 112 勞 翰 漢代郡制及其對於簡牘的參証
台灣大學傳故校長紀念論文
集 學術季刊一 一 一九五
- 113 簡牘中所見的布帛 //
- 114 勞 翰 漢代郡制及其對於簡牘的參証
集 學術季刊一 一 一九五

117	陳 槃	漢晋遺簡偶述之続	集刊 三三下	一九五三
118	大庭 脩	材官攷―漢代兵制の一斑―	龍谷史壇 二	〃
119	平中 苓次	居延漢簡と漢代の財産税	立命館人文科学研究所紀要 二、中國古代の田制と税法―秦漢經濟史研究―(一九六二)所収	一九五三
〇	森 鹿三	居延漢簡研究序説	東洋史研究 二一―三	一九五三 再出
120	〃	閔奮夫王光	〃	一九五三
121	大庭 脩	漢代における功次による昇進について	〃	〃
122	〃	契令について	〃	〃
123	日比野 丈夫	漢簡所見地名考	〃	〃
124	米田 賢次郎	漢代の辺境組織―燧の配置について―	〃	〃
125	伊藤道治	漢代居延戰線の展開	〃	〃
126	岡崎 敬	漢代辺境兵士の被服について	〃	〃
127	吉田光邦	弓と弩	〃	〃
128	川勝義雄	居延漢簡年表	〃	〃
129	仁井田陸	中国売買法の沿革	法制史研究 一	〃
130	西村元佑	漢代の徭役制度	東洋史研究 二一―五	〃
131	勞 鞅	漢代常服述略	集刊 四	一九五三
132	〃	漢朝の具制	中央研究院院刊 一	〃
133	高平子	流沙墜簡中一組漢曆簡年 期考定	大陸雜誌 一―一	〃
134	藤枝 晃	漢簡職官表	東方學報 京都 三三	〃
135	米田 賢次郎	漢代辺境兵士の給与について	〃	〃
136	日比野 丈夫	河西四郡の成立について	〃	〃
137	大庭 脩	漢代官吏の勤務規定―休暇を中心として―	聖心女子大學論叢 四	〃
138	〃	漢代の関所とパスポート	石浜先生還曆記念論集	〃
139	勞 鞅	玉佩與剛卯	集刊 三	一九五三
140	森 鹿三	令史弘に関する文書	東洋史研究 二四―一・二	〃
141	日比野 丈夫	郷亭里についての研究	〃	〃
142	米田 賢次郎	帳簿より見たる漢代の官僚組織について	〃	〃
143	守屋 美都雄	父老	〃	〃
144	大庭 脩	漢の畜夫	〃	〃
145	吉田光邦	漢簡二題	〃	〃

158	森 鹿三	居延出土の卒家属廩名籍について	稀記念東洋学論叢	一九〇
157	藤枝 晃	木簡の字すがた	墨美 九三	〃
156	森 鹿三	居延漢簡の集成——とくに第二亭食簿について——	東方学報京都元	一九五
155	大庭 脩	爰書考	聖心女子大 学論叢二	〃
154	森 鹿三	居延出土の一冊書について	稀記念東洋学論叢	一九五
153	大庭 脩	漢代官吏の兼任について	聖心女子大 学論叢九	〃
152	森 鹿三	居延簡に見える馬について	東方学報京都	〃
151	陳 槃	漢簡碎義	大陸雜誌 五一—四	〃
150	馬 衡	居延漢簡考釈兩種	考古通訊一 期	一九五
149	饒宗 頤	居延漢簡術数耳鳴目瞶解	大陸雜誌 三—12	一九五
148	馬 衡	冊書考（永元器物簿）	西北文物展 覽会特刊	〃
147	〃	〃	東洋史研究 四—1・2	〃
〇	藤枝 晃	長城のまもり—河西地方出土の漢代木簡の内容の概観	自然と文化 別編 II	〃
146	安作 璋	漢史初探	学習生活出版 社刊	〃
159	大庭 脩	漢代官吏の辞令について	関西大学文 学論集二〇— 1	〃
160	森 鹿三	居延漢簡とくにウランド テ ベルジン出土簡につい て	史林 四—三	一九六
161	西嶋定生	中国古代帝国の形成と構 造	東大出版会 刊	〃
162	田中 有	有紀年漢簡資料年表	漢文学会 報二〇	〃
四 参考論文（西北科学考察団に關係有るものその他）				
163	趙萬里	古写本戰国策殘卷書影	北平北海圖 書館月刊二 —1	一九五
164	黄文 弼	西北科学団在新疆考古情 形	女師大学術 季刊一—4	一九〇
165	—	西北科学考察団所獲古物 展覽会略息	北平図書館 館刊四—6	〃
166	黄文 弼	新疆古物概要	東方雜誌 六一—5	一九三
167	馬 衡	記漢居延筆 西北科学考 査団短篇論文之一	国学季刊三 —1	一九三
168	賀昌 羣	近年西北考古的成績	燕京学報三	〃
169	高田竹田	楼蘭発掘燕策について	書道二—10	一九三
170	馬衡著 文 識	漢の居延筆を記す	書道五—11	一九五
171	勞 榘	論中国造纸術之原始	集刊一九	一九五

172 西村兵部

ヘディン探検隊発見の漢代の絹(上)エディンロ
1ル流域漢代壘出土の
絹織物(下)ロブノール
地方における漢代絹の発見

考古学雑誌
四一—二—三
一九三

173 傅振倫

記長沙古家公山発現的古筆

文史哲 = 〃

174 —

平城宮跡第五次発掘調査報告

奈良国立文化研究所 一六一

175 Reports from the scientific expedition to the north-western provinces of China under the leadership of Dr. Sven Hedin.

I History of the expedition in Asia, 1927-35,

by Sven Hedin, in collaboration with Folke Bergman.
pt. 1: 1927-28 pt. 2: 1928-1933 pt. 3: 1933-1935.
1944

pt 4.: General reports of travels and field-work, by Folke Bergman, Gerhard Bexell,

Birger Bohlín, Gosta Montell. 1945

II Geodesy

1. Latitude and longitude determinations in eastern Turkistan and northern Tibet derived from astronomical observations, by Nils Ambolt. 1938
2. Relative Schwerkraftsbestimmungen mit

Pendeln in Zentralasien, von Nils Ambolt. 1948

III Geology

1. Geology of western Qurug Tagh, eastern T'ien-shan, by Erik Norin. 1937
 2. Notes on some late palaeozoic localities in the Nan-shan Se of Tun-huang, by Birger Bohlín. 1937
 3. Notes on the hydrography of western Kansu, by Birger Bohlín. 1940
 4. Igneous rocks of Nanshan: a study in Caledonian igneous rocks, by Torsten du Rietz, introd. by Gerhard Bexell. 1940
 5. Some notes and data concerning dunes and sand drift in the Gobi Desert by Nils G. Hörner.
 6. Geologic reconnaissances in the Chinese T'ien-shan, by Erik Norin, appendices by F. Heritsch, F. Kahler and B. Bohlín. 1941
 7. Geological explorations in western Tibet, by Erik Norin. 1946
- V Invertebrate Palaeontology
1. On the Cambro-Rodovician faunas of western Qurug Tagh, eastern T'ien-

shan, by Gustaf T. Tredsson. 1937

2. Untersuchungen über die Fauna und Ostturkistan, von Hans Frebold. 1940

3. On the Siluro-Devonian fauna of chöltagh, Eastern T'ien-shan. pt. 1 : Anthozoa, by Gerhard Regnell. 1941

VI Vertebrate Paleontology

1. Eine-tertiäre Säugetier-Fauna aus Tsaidam, von Birger Bohlin. 1937

2. Oberoligozäne Säugetiere aus dem Shargaltain-Tal (western Kansu), von Birger Bohlin. 1937

3. The fossil mammals from the tertiary deposit of Taben-buluk, Western Kansu. pt. 1 : Insedivora and Lagomorpha, by Birger Bohlin. 1942

4. idid. pt. 2 : Simplicidentata, Carnivora, Artiodactyla, and Primates, by Birger Bohlin. 1946

5. Some mammalian remains from Shih-ehr-ma-chéng, Hui-hui-p'u area, Western Kansu, by Birger Bohlin. 1951

6. Fossil reptiles from Mongolia and Kansu, by Birger Bohlin. 1953

VII Archaeology

1. Archaeological researches in Sinkiang, by Folke Bergman. 1939

2. Woollen textiles of the Lou-lan people, by Vivi Sylwan; introd. by Folke Bergman : appendix : Spinning tools and spinning methods in Asia, by G. Montell; 1941

3. Das Schädel- und Skelettgut der archäologischen Untersuchungen in Ost-Turkistan, von Carl-Herman Hjortstjöm und Anders Walander. 1942

4. The skeletal material, collected during the excavations of Dr. T. J. Arne in Shah Tepe at Astrabad-Gorgan in Iran, by Carl M. Fürst. Tierreste der Ausgrabungen von dem "Grossen Königshügel" Shah Tepe, in Nord-Iran, von J. Wolfgang Amschler. 1939

5. Excavations at Shah Tepe, Iran, by T. J. Arne. 1945

6. Investigation of silk from Edsen-Gol and Lop-Nord and a survey of wool and vegetable materials, by Vivi Sylwan. 1949

7. Contribution to the prehistory of Mongolia: a study of the prehistoric collections from inner Mongolia, by John Maringer, together with the catalogue prepared by Folke Bergman. 1950
8. See No. 75. pt. 1 1956
9. *ibid.* pt. 2 1958

VIII Ethnography

1. Yung-ho-kung : an iconography of the lamaist cathedral, with notes on lamaist mythology and cult, by F. D. Lessing. 1942
4. The music of the Mongols, pt. I Eastern Mongolia by Henning Haslund. 1943
5. The cotton-clad mila : the Tibetan poet-saint's life in pictures, by Toni Schmid 1952
6. Contributions to ethnography, linguistics and history of religion. 1954
7. The eighty-five Siddhas by Toni Schmid. 1957
8. Die religiöse Welt der Bäuerin in Nordchina. by Brunhild Körner. 1959

IX Meteorology

1. Ergebnisse der allgemeinen meteorologis-

- chen Beobachtungen und der Drachen aufsiege an den beiden Standlagern bei Ikenгүйг und am Edsen-Gol. 1931-32 von Waldemar Haude. 1940
2. Ergebnisse von Dr. Haudes Beobachtungen der Strahlung und des Wärmehaushaltes der Erdoberfläche an den beide Standlagern von Fritz Albrecht, unter Mitwirkung von Paul. Brosse. 1941

X a. Zoology

- Zur Arthropodenwelt Nordwest-Chinas. Sammlungen Dr. David Hunnmels in den Jahren 1927-30. pt. 1. 2. Insecta pt. 3 Myriopoda und Arachnoidea. 1937

XI Botany

1. Lichens from Central Asia, by A. H. Magnusson. 1940
2. Lichens from Central Asia pt. 2. by A. H. Magnusson 1944
3. A contribution to our knowledge of the distribution of vegetation in inner Mongolia, Kansu and ching-hai, by Birger Bohlin. 1949
4. Flora of the Mongolian steppe and desert areas, by Tycho Norlindh. I. Peridophyta, gymnospermae and monocotyledoneae (typhaceae-graminae). 1941